

### 第3回社会基盤専門委員会での主な意見

平成26年1月20日

市役所6階大会議室

#### (快適な市街地と集落の基盤形成)

- ・現在の鶴岡市が合併する前は、それぞれの地域で社会基盤を整備してきた。そういった背景も踏まえ、中心市街地の活性化に加え、周辺地域におけるサブコアの充実なども一方で必要。
- ・「既存ブロックの地域計画を充実させ、そこを基点にまちづくりをしていく」ということを計画に盛り込むべきである。

#### (歴史や伝統・文化を大切にしたい誇りの持てる地域づくり)

##### (賑わいある中心市街地の形成)

- ・空き家対策では、狭隘道路の車社会に対応できない小路がネックになっているので、風致という観点から保存したほうがよい部分はどこかをはっきりさせてほしい。
- ・小路は他の地域から来た人には大きな魅力なので、共存できるような形でうまく活かしていくべきである。

##### (情報社会に対応した環境整備の推進)

- ・情報インフラの計画について、目に見える説明はいいが、この計画をすることによる有効性等の説明があるとより具体的なイメージができていいのではないか。

##### (快適で安全・安心な住環境整備)

- ・空き家をどう地域の魅力として、また、生活の基盤として活用していくのかを、それぞれの地域で計画をつくる必要がある。そういった地域のプランというものが最も重要な議論である。
- ・住生活基本計画の中で提案されている中心市街地と地域の中心部の均衡を保つ計画と、今回の社会基盤での中心市街地に一定のものは集中させるという計画について、関係性を整理する必要があるのではないか。

##### (その他)

- ・基本計画の構成について、個別の項目よりも、地域単位での項目の方が今後重要になってくるのではないか。

- ・支所中心に、基本的な地域のあり方や発展の仕方等を考えて計画に載せるべきであり、そういった視点が全体的に希薄である。